

南阿蘇村 復興むらづくり だより



復興推進課

TEL (67) 1113

■南阿蘇村震災遺構保存の取り組み

村では、熊本地震で得た教訓や経験を後世に残すため、保存・活用方法を平成29年度から検討し、その結果9カ所を震災遺構として選定しました(下記南阿蘇村震災遺構マップ参照)。遺構は、現物保存しているもの、ICT技術を用いて疑似的に保存しているものなど、それぞれの遺構に合った保存が行われています。これまで、村内小・中学生の防災学習や県外の視察団体など多くの方々が現地を訪れています。今後は旧阿蘇大橋地区の大規模斜面崩落(数鹿流崩れ)対策工事完了に伴う自然災害碑の設置や震災遺構周遊パンフレットの作成など、取り組みのさらなる充実を目指します。

■震災の教訓を学ぶ場、高野台防災公園

令和2年3月熊本地震で被害が大きかった高野台地域に防災公園を整備しました。有事の際の緊急避難場所や、自衛隊・消防・警察などの活動拠点としての活用を想定した公園です。また、平時は防災訓練等に活用するとともに震災遺構に選定している大規模すべり跡と併せ、震災の記憶・教訓

を後世に繋いでいく場としても活用していきます。

■ICTによる震災遺構の疑似的保存について

前述のように南阿蘇村の震災遺構の中にはICT技術を用いて疑似的に保存しているものがあります。そのひとつが熊本地震伝承公式アプリ「つなぐ」です。

平成31年3月から本アプリを配信しており、震



→南阿蘇村震災遺構マップ

災遺構の震災直後からの復旧状況の写真や、施工中の新阿蘇大橋(仮称)のCG動画の閲覧、また現地に震災遺構に携帯をかざすと当時の状況をCGで再現する機能もあります。復興や観光のお知らせも随時更新していきますので、ぜひご覧ください。他には阿蘇五岳及び外輪山周辺の立体模型に映像を投影し、熊本地震のメカニズムを学習することができ、プロジェクトマップが利用できます。熊本地震による山腹の崩壊や断層の位置図等を映し出すことで、視覚的に分かりやすく説明することが出来ます。このような整備を行うことで、復旧工事等で分かりづらくなる震災の爪跡を後世に遺していきます。



アプリのダウンロードはこちら

■新たな専門学校の事業計画が承認

観光施設や地域活性化事業を手掛けるアイデアパートナーズ(福岡市、井出修身代表)は南阿蘇村と連携し、旧長陽保健センターを使用し、専門学校「インターカレッジ阿蘇」を令和4年4月に開校する計画が県に承認されました。同学校は2学年160人、うち半数を日本語修得済みの留学生とし、ICT分野で即戦力になる人材を養成する。ITビジネス学科と、観光サービス従事者を育てる国際ビジネス学科の2学科を開設する予定です。開校後は、教育分野等におけるICTの推進や地元住民との交流など、地域の活性化が期待されます。